

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭62-170010

⑬ Int. Cl. 4

A 61 B 17/08  
17/28

識別記号

3 1 0

庁内整理番号

6761-4C  
6761-4C

⑭ 公開 昭和62年(1987)10月28日

審査請求 未請求 (全3頁)

⑮ 考案の名称 生体組織のクリップ装置

⑯ 実 願 昭61-58675

⑰ 出 願 昭61(1986)4月18日

⑱ 考 案 者 真 木 憲 一 郎 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリンパス光学工業株式会社内

⑲ 出 願 人 オリンパス光学工業株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

⑳ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 生体腔内に挿入可能な導入管と、この導入管内に進退自在に挿通された操作部材と、上記導入管内に進退自在に挿通され先端にフックを取着した操作ワイヤと、基端部を有しこの基端部より延出する腕部の先端に挾持部を形成して開拡習性を持つクリップと、このクリップの基端部に上記腕部とは反対方向に突設された鉤と、上記操作部材の先端に着脱自在に装着され上記腕部に被嵌して装着することにより上記クリップの挾持部を開成するクリップ締付用リングとを具備する生体組織のクリップ装置において、上記クリップ締付用リングと操作部材に挿通可能で一端で上記鉤と着脱自在に係合し、他端で上記フックと着脱自在に係合する連結部材を設けたことを特徴とする生体組織のクリップ装置。
- (2) 上記クリップの鉤と連結部材との係合位置に被嵌した締付用リング内に固定剤を充填したこ

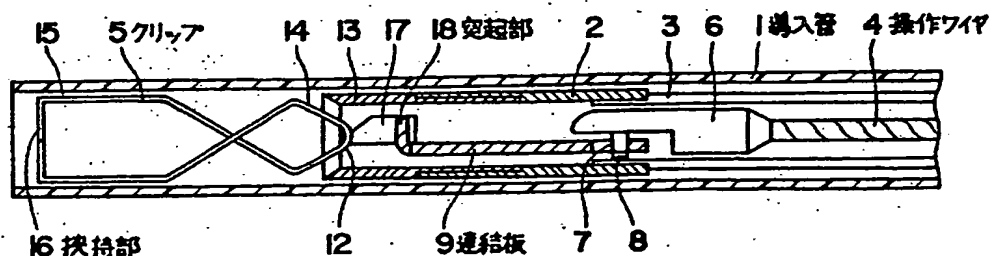
とを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の生体組織のクリップ装置。

図面の簡単な説明

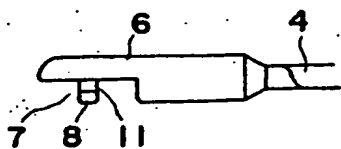
第1図乃至第9図は本考案の第1実施例を示しており、第1図は先端部の断面図、第2図、第3図はフックを示す図、第4図はクリップを示す斜視図、第5図はクリップ、連結板、クリップ締付用リングに係合したときの側面図、第6図は連結板をフックに取着ける時の組立図、第7図は連結板をフックに取着けた時の組立図、第8図は使用状態における先端部の断面図、第9図は生体組織を挟んだクリップの状態図、第10図は第2実施例の連結板とフックの一部断面図、第11図は第3実施例の断面図である。

1……導入管、3……操作管、4……操作ワイヤ、5……クリップ、6……フック、9……連結板、13……クリップ締付用リング、17……鉤、18……突起部。

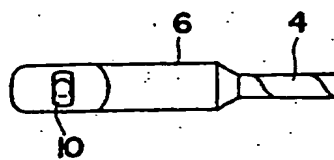
第1図



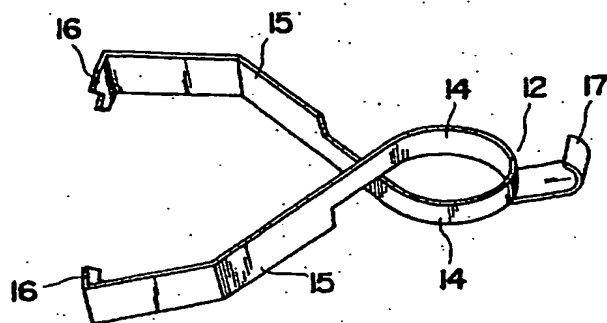
第2図



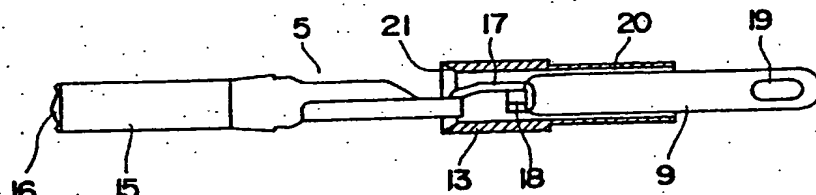
第3図



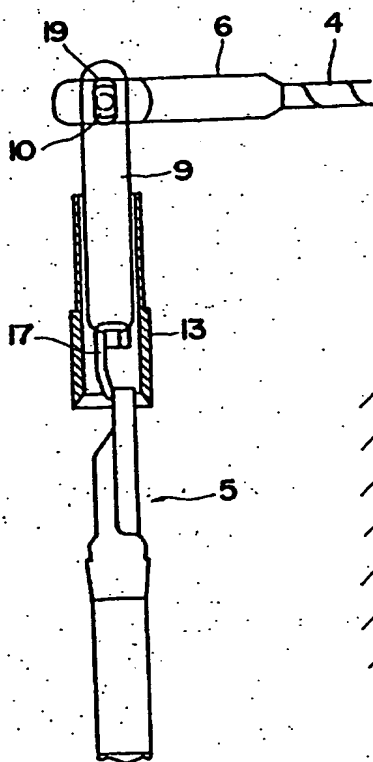
第4図



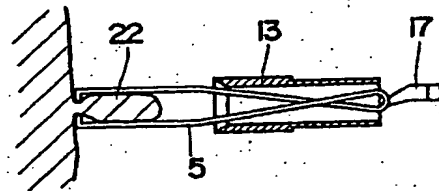
第5図



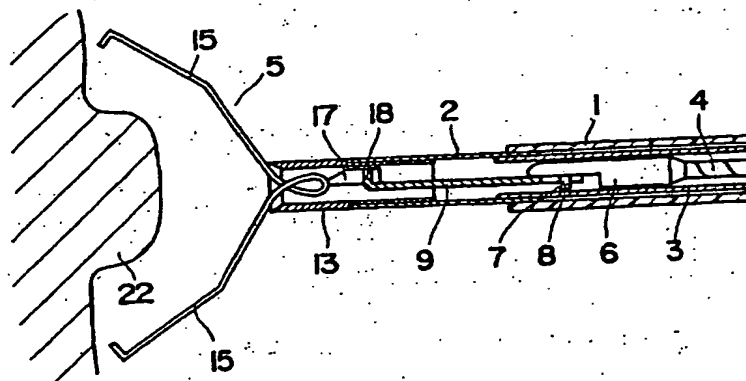
第6図



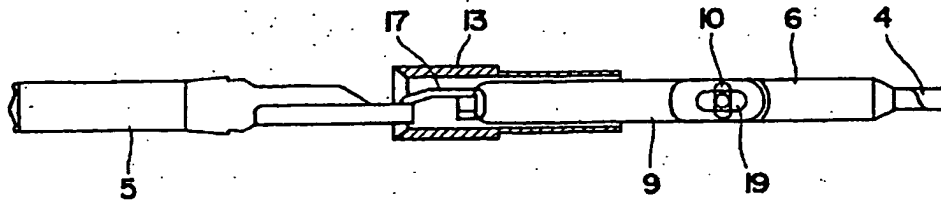
第9図



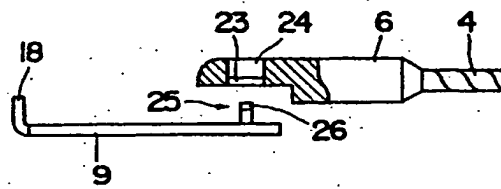
第8図



第7図



第10図



第11図

